

講演会・研究会開催報告

ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 江澤 照美

平成 24 年度、高等言語教育研究所主催により実施した講演会ならびに研究会は以下の通りである。(文中敬称略)

- 平成 24 年度講演会

日時： 11 月 12 日(月) 16:10 ～ 17:40 (5 限目)

会場： S101 教室

演題：「体験的外国語の学び方」

講師： 荒川 清秀 (愛知大学地域政策学部教授)

講演概要：

中国語教師である私は、90 年代にヨーロッパを訪れたのを機に、ドイツ語、フランス語を学び、その後アジアに目を向けたときに韓国語を学びなおした。

その中で、外国語の学習法を自覚し、外国語を学ぶ目標はなにかについて考えてきた。外国語学習の目的はネイティブスピーカーになることだと思っている人、留学すればなんとかなると思っている人たちに、学生時代に留学できなかった世代の一人として、留学しなくても日本でできることはなにか、留学するまでに何をしておくべきか、外国語を学ぶ際の視点についてお話したい。

(以上、講演前に講師よりいただいたものを掲載)

司会： 江澤 照美 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

参加者数： 152 名

- 第 12 回言語教育研究会

日時： 8 月 9 日(木) 13:00 ～ 16:40

会場： E305 教室

司会： 江澤 照美 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

参加者数： 28 名

発表者及び発表タイトル

(1) 13:30 ～ 14:20

吉池 孝一 (中国学科)

「東アジアの未解読文字 - 契丹文字解読の国際会議に参加して」

(2) 14:30 ~ 15:20

小坂 光一 (名古屋大学名誉教授、本学非常勤講師)
「2つの教授法 (TPR と CLL)」

(3) 15:30 ~ 16:40

デイビッド・ワッツ (英米学科)、宮谷 敦美 (国際関係学科)、
人見明宏 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)

「学習戦略とポートフォリオ導入に関する実践報告 — Communicative English II とドイツ語 (文法) の事例より —」
(英語タイトル: Eliciting student feedback on Language Learning Strategy Training in Japanese University classes)

- ・ 第13回言語教育研究会 (注: 本稿執筆時点での予定)
日時: 2月18日(月) 13:30 ~ 16:30
会場: E305 教室
司会: 江澤 照美 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

発表者及び発表タイトル

- (1) 馬場 典子 (本学非常勤講師)
「「嫌悪」を表す動詞の意味分析—「うんざりする」と「飽きる」—」
- (2) 林 淑蕙 (本学非常勤講師)
「夏目漱石が教えてくれたこと: 文学作品の音読による想像力と言語学習向上効果について」
- (3) 大門 正幸 (中部大学教授、本学非常勤講師)
「大学英語教育のあるべき姿について考える」

<加藤史朗先生ご退職記念特別講演>

- (4) 加藤 史朗 (国際関係学科)
「第二外国語としてのロシア語と「おろしゃ会」について」